

2023  
SUMMER

MINSAI  
CENTER



vol.

92

# ダルニー

通信

特集：支援者様に支えられて



支援者様に支えられて	2
チャリティーコンサートで子どもたちを学校に ～MS&AD 軽音楽部・MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ～	3
ラオスオンラインツアー ～富士通エフサス労働組合～	4
平和・国際フェスタ「ハートカフェ」 ～パルシステム神奈川～	5
日本・ラオスの国際交流 ～宗沁会～	6,7
NPO フェスティバル ～H <sub>2</sub> O サンタ～	8
パン屋さんで落語会	9
犯罪に走る子どもを減らすために	10
連載5：今は昔「民際センター物語」	11

# 支援者様に支えられて

民際センター 理事長

秋尾 晃正

方丈記の冒頭文、「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」には、流れゆく川の水は絶えることがなく、常に新しい水も入り変化していくことが描かれています。ダルニー奨学金支援の流れは、おかげ様で35年以上途絶えることなく続いています。新たに支援に加わってくださる方々も時代と共におられ、そのようなお一人お一人によって、民際センターは支えられています。

35年間で、民際センターをご支援いただいた方々の延べ総数は、約37,000名になります。ダルニー奨学金の初期の支援者の中には、戦前（第2次世界大戦前）にお生まれになった方も多くおられました。その世代に、さらに高度成長期の日本経済を支えた昭和世代の方々が加わり、そして阪神淡路大震災、東日本大震災を経験した平成の世代にも広がっていきました。最近では、Z世代といわれるデジタルネイティブの方々にも広がっています。戦争や貧困を経験した世代と、それに比べれば経済的に安定した平和な社会に生まれ育った世代とでは、奨学金支援の動機に変化はあるかもしれませんが、共に同じ地球に生きる者として、国際教育里親という「理想の光」を共有してこられたのではないかと考えています。そこには、国家意識を超えた地球市民的思考で、平和と共存共栄を望む精神があるのだと思います。さらにこれからの令和世代にも、ダルニー奨学金支援が広がっていくことを願います。そのためには、民際センターも変わっていかねばなりません。

ダルニー奨学金事業が始まった当初、写真の照合や証書の内容に間違いが多く、そのような状況の中でも、辛抱強く、実情を理解して、長年支援し続けてくださった支援者の方々がいらっしゃいました。誠にありがとうございます。まだまだ至らぬ点もありますが、メコン5カ国の事業所スタッフと連携し、寄付された奨学金を間違いなく滞りなく奨学生のもとへ届け、しっかり支援者様にご報告できるように今後も誠実に精一杯取り組んでまいりたいと思っております。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。（2023年3月記載）

## MS&AD軽音楽部・ MS&ADゆにぞんスマイルクラブ チャリティーコンサートで 子どもたちを 学校に

2023年2月17日、MS&AD軽音楽部とMS&ADゆにぞんスマイルクラブ(有志社員による社会貢献団体)の共催で、第27回バレンタイン・チャリティーコンサートが行われました。ここ数年は新型コロナウイルスの影響で動画配信での開催となっておりましたが、3年ぶりに三井住友海上駿河台ビル大ホールでの開催となり、民際センターもコンサートの中で15分ほどお話しする機会をいただきました。



チャリティーコンサートの様子

このコンサートは、1996年からチャリティーとして行われているコンサートで、チケットの売り上げとMS&ADのグループ会社の役職員からの寄付金全額を、ダルニー奨学金として毎年ご寄付いただいております。これまでいただいた奨学金口数は、1,753口で、タイ・ラオス・カンボジアの600名を超える生徒がその奨学金を受けて学校に通うことができます。長年にわたるご支援への感謝の気持ちを込めて、現在支援を受けて学校に通うタイの生徒4名からのコメントやメッセージビデオを交えてご報告させていただきます

た。生徒たちが支援に感謝し励まされていること、貧しい中でも教育を受けることで夢や希望を持って歩むことができていることなどをお伝えすることができました。

中には、学校の校歌斉唱の際に鉄琴を弾いている生徒や、マンドリンを弾くのが大好きで、いつか音楽家になりたい生徒もおり、いつか彼らが日本に来てこのコンサートでコラボできればと思い描き、奨学金を通しての交流がより深まっていくことを感じたひと時となりました。

3組のバンドが、楽しく素晴らしい演奏をされ、聞いているこちらも楽しくリフレッシュできるような時間でした。音楽を通じて子どもたちの教育支援に、そして笑顔につながっていると思うとたいへん感動しました。このような支援がさらに広がることを願っています。MS&AD軽音楽部とMS&ADゆにぞんスマイルクラブの皆様、素敵なお支援を心より感謝申し上げます。



会場の様子



寄付金贈呈式

## 富士通エフサス労働組合 結成30周年記念

# ラオス オンラインツアー

2002年よりラオスの子どもたちへ奨学金支援をしてくださっている富士通エフサス労働組合様が、2023年2月15日、ラオスのオンラインツアーを開催されました。

2015年に校舎を寄贈していただき、奨学金のご提供も受けているラオスのケムアン中学校とオンラインツールで中継を結び、現在の学校や生徒の様子をご覧いただきました。校長先生からのお話や、富士通エフサス労働組合から子どもたちに向けての日本の紹介や、支援者と奨学生の対面の時間も設けることができ、交流の時間を過ごすことができました。

これまで富士通エフサス労働組合様にはラオスの学校へ何度も足を運んでいただきましたが、コロナ禍で渡航が難しくなり、長らく現地を直接訪れることができない中、労働組合結成30周年記念のイベントとして初めてオンラインツアーが企画されました。組合員の皆様のお昼休みの時間である12時(ラオス時間では午前10時)から始まり、約1時間のプログ

ラムで行われ、時には通信が不安定になりそうな場面もありましたが、日本とラオスの交流がオンライン上で初めてなされました。日本からの参加者は、会議室に集まって参加する方々と、各地からそれぞれのデバイスで参加する方々とを併せて約80名、ラオスからは、生徒と先生、教育関係者やラオス事業所のスタッフを含め約120名が集い、全体で約200名の方々が集う大きなイベントとなりました。

最後に、学校側から要望があった図書コーナー設置のための本棚5つと図書300冊が記念品として贈呈されました。その後、ラオスで集われた全ての方へランチのご馳走が用意され、チキンとライス、マカロニスープにパイヤサラダ、フルーツやジュースなどがふるまわれ、子どもたちにとっても楽しいイベントとなりました。組合員の皆様からは、以前植樹した木が大きくなっているのが見えた、子どもたちが学ぶ教室や校庭を久々に見られて懐かしかったなどの声もいただき、今後につながる交流の時間になりました。



贈呈した図書コーナーと校長先生



楽しそうなランチタイムの生徒たち

## パルシステム神奈川 平和・国際フェスタ 「ハートカフェ」

日頃より書き損じはがきや未使用切手回収による支援でダルニー奨学金をサポートしてくださっている生活協同組合パルシステム神奈川様。2023年2月4日、パルシステム神奈川様主催の平和・国際フェスタ「ハートカフェ～ぶらり地球さんぽ～」に、民際センターも参加させていただきました。

映画上映、演奏会、世界各国の商品販売など、国際色あふれるイベントブースが並ぶ中、民際センターは、ラオスやカンボジアの子どもたちの家事手伝いの一つである「水汲み」を体験するワークショップを出展させていただきました。

本来は子どもたちが井戸や川辺まで行き、バケツに水を汲んで家まで運ぶのですが(写真下)、当日は水がこぼれないよう、また様々な水の重さにチャレンジしていただけるよう、2リットルのペットボトルの水を2つの袋に入れてかつぐ形式で代用しました(写真右下)。小さなお子様から小・中・高校生、大人の方々まで、さまざまな年齢層の方に水汲み(水かつ

ぎ)を体験いただき、「またやりたい！」と2回目にチャレンジしたり、お友だちや兄弟姉妹を連れて再度訪れてくれたりした子どもたちもいました。水の重さを体感することで、多くの方に現地の子どもたちの暮らしに関心をもち、理解してもらうことができたと感じています。そして、そのような子どもたちを支える「ダルニー奨学金」と民際センターの支援活動についても知っていただく大変よい機会となりました。

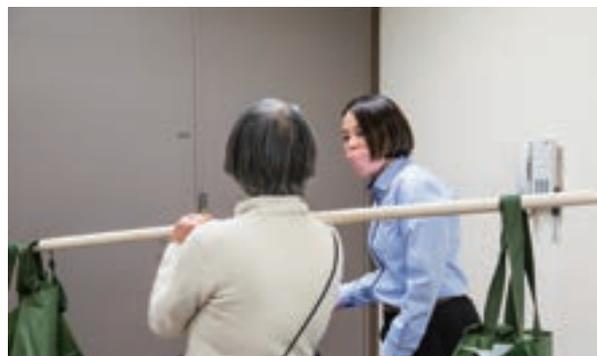
当日は会場近くにお住まいの民際センター支援者の方々がイベント会場へ足を運んでくださり、直接お話しできる貴重な機会にも恵まれました。またブースに設置したチャリティー募金箱を通して、ダルニー奨学金1口分以上のご寄付も集まりました。ご来場くださった皆様、ご寄付くださった皆様、大変ありがとうございました。



■ 当日の民際センターブース



■ 井戸から汲んだ水を運ぶラオスの子ども



■ ワークショップ<水汲み体験>の様子

# 宗沁会

## 日本・ラオスの 国際交流

宗沁会は、静岡県御殿場市にある茶道教室です。毎年チャリティーお茶会を開催し、そこで集まった寄付金をダルニー奨学金として、ラオス中学生の就学支援をしてくださっています。2022年12月に宗沁会の子どもたちが書いたお手紙に対して、2023年2月にラオスの奨学生たちから返事が届き、文通による日本とラオスの国際交流が実現しました。

### 日本からの手紙

#### ゆいなさんより ジェックキー君へ

私は日本に住んでいる中学一年生です。女の子です。部活に勉強と、とっても忙しい毎日です。あなたはどんな毎日を過ごしていますか？

私は11歳から茶道を始めました。もともと母が茶道をやっていて、小さいころからお手伝いをして、気付いたら「茶道」というものをやっていた感覚です。茶道とは日本の文化で、お道具を使ってお茶をたてるんです。やっているとっても心がおちつくし、少し苦いけどあったかくておいしいんですよ。そんな茶道を習い事として仲間とがんばっています。

年に一度「お茶会」というものを開き、そこで集まったお金をラオスに送っています。あなたに届いたのでしょうか？届いてくれていたら、とってもうれしいです。

茶道の他に私が続けているものがあります。ピアノです。ピアノは10年ほど続けているのですが、茶道とはまた違う魅力があります。音で気持ちを伝えたり、表現したり、時に自分の気持ちを代弁してくれます。茶道も、ピアノも、長く続けていると上手いかわなくて苦しいこともあります。楽しいと思える時が来ると幸せだし、何よりラオスの子たちに届いていると考えると元気ができます。

あなたが夢中になっていること、続けていることはありますか？ぜひ知りたいです。他にもあなたのことをもっと知りたいです。お返事待っています。



#### あかりさんより ヴィマーラーさんへ

私は勉強もピアノもあまり好きではなく、ダンスなど体を動かすほうが好きですが、茶道だけは体を動かさない習い事ですがとても好きです。教えてくれる先生はていねいに分かりやすく教えてくれるので茶道が大好きです。

最近は部活と茶道がかぶってしまい練習に行けない日がたくさんありますが、茶道をやめようとは思いません。これからも茶道をつづけるので楽しみにしてください！返事まっています。



#### さらさんより センター君へ

わたしは日本のしずおか県というところに住んでいます。そこに住んでいる小学校の3年生の女の子です。あなたはなんさいですか。わたしは9才です。好きな色、好きな生き物はなんですか。わたしの好きな色は緑で、好きな生き物はかめです。わたしはお茶教室（さどう）をやっています。1年に1回だけチャリティー茶会というのをやっています。この手紙を見ているあなたにもお金がとどくかもしれません。もしお金がきたら使ってください。それでよい生活をしてがんばってください。よろしく願います。



#### そうすけ君より ヨテイン君へ

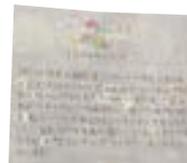
ぼくは日本のふじ山のちかくにすんでいる、8歳です。いま茶道をならっています。とても楽しいです。ラオスのみんなはなにをするのが好きですか？いつかいっしょにおちゃをしたりあそんだりしたいです。

ぼくは将来建築士になりたいです。だから勉強がんばります。ラオスのみんなもがんばってね。ラオスのたてものもみてみたいです。



#### けんしん君より ヨテイン君へ

ぼくは、日本の静岡県に住んでいます。小学5年生です。今はならいごとで茶道をやっています。ラオスのみなさんはなにをやっていますか？ぼくは小学2年生のころから茶道をはじめ、いつも練習をし、一年に一度「チャリティー茶会」というのがありラオスの子供たちをしえんしています。ぼくは、茶道が楽しいです。ラオスのみなさん学校などががんばってください。おうえんしています。





宗沁会の皆さん

## ラオスからの手紙

ヴィマーラーさんから  
あかりさんへ 

私の名前はヴィマーラー・サヌヴォンです。ラオスの中央部にあるカムアン県に住んでいる中学4年生で、14歳です。好きな色は黒です。一番好きな動物は猫です。



毎日、月曜日から金曜日までは学校で勉強しています。週末の休みには、家族の仕事を手伝います。平日は学校が終わると家畜に餌をやったり、畑の水まきをしたりして両親を手伝います。ダルニー奨学金を受け取りました。あなたたちからもらった奨学金を役立てて、これからも一生懸命勉強します。学校へ休まず通い、よく学び、テストでもいい点数を取れるように頑張ります。あかりさんが学校で元気に楽しく過ごせることを祈っています。ヴィマーラーより (Vimala)

ジェックキー君から  
ゆいなさんへ 

僕の名前はジェックキーです。お元気ですか？僕はサワンナケート県に住んでいます。サッカーが好きです。好きな食べ物は青パイヤサラダ（タム・マークフン）と筍スープ（ケーン・ノーマイ）です。ラオスにはたくさんさんの観光地があります。もし、あなたたちの時間があれば、ぜひみんなでラオスに来てください。日本のお友達が、勉強をがんばって、テストでもいい点を取り、元気でいてくれることを祈っています。ジェックキーより (Jekky)



センター君から  
さらさんへ 



僕はラオスのサワンナケート県に暮らしている、14歳の中学校2年生です。名前はセンターといいます。私は水色と鳥が好きです。地理を勉強するのが好きです。焼き魚と青パイヤサラダを食べるのが好きです。日本の気候は寒いですか？こちらは暑い日もあれば、涼しい日もあります。僕は毎朝7時に起きて、シャワーを浴びて学校へ行きます。私にはやんちゃな弟が1人います。好きな遊びはサッカー、セパタクロ（フットバレーボール）、ペタンク（鉄球を投げるスポーツ）です。僕は1日も休まず登校していて、先生はとても優しいです。家にいる時はとても暑いので、薄着の服に着替えます。朝、学校へ行く前に読書をしたり、鶏に餌をあげたりします。豚も何頭も飼育しています。数学は苦手ですが、授業はちゃんと聞いています。もしラオスに来る機会があれば、ぜひお会いしたいです。遊びに来てください。最後に、あなたが元気で幸せでいられることを願っています。センターより (Center)

ヨテイン君から  
そうすけ君へ 

僕の名前はヨテイン・シブンハンです。14歳です。ラオス中央部にあるカムアン県ターケー郡に住んでいる、中学4年生です。現在、学校で一生懸命勉強をしています。この学校の先生はとても優しいです。僕は絵を描くことが好きです。夢は医者になることです。それから日本へ行ってみたいです。もし機会があれば、君に会って、一緒に富士山に行ってみたいです。君たちが淹れるお茶はきっとおいしいのでしょうね。こうして、僕たちを助けるためにお茶会で寄付を集めてくれてどうもありがとう。茶道を続けられるよう応援しています。ありがとうございます。ヨテインより (Yotin)



ヨテイン君から  
けんしん君へ 

サバイディー（こんにちは）。僕の名前はヨテイン・シブンハンです。14歳です。カムアン県のターケー郡に住んでいる、中学4年生です。僕の家はとても貧しいです。僕は長男で、弟が1人います。勉強するためには、一生懸命働かなければなりません。生きるために両親と一緒に木炭を売っていますが、それほど多くのかせぎにはなりません。最近ではあらゆるものが値上がりしています。母は体調が優れず、長時間働けません。代わりに僕がたくさん働くようにしています。平日は学校に通い、週末は両親と一緒に働きに出かけます。送っていただいたダルニー奨学金で、制服と教材が僕のところに届きました。とても嬉しいです。こつこつ勉強して、ほかの友達のように進歩していけたらと思います。そうすけ君、制服と教材をありがとうございます。決してがっかりさせたりはしません。君も僕も、これからも幸せで、病気にかからず、長生きできるといいですね。たくさん勉強して、もしこの先チャンスがあれば、日本に行ってみたいです。いつか会えるといいですね。ヨテインより (Yotin)



# H<sub>2</sub>Oサンタ NPOフェスティバル にブース出展 in大阪

一般財団法人 H<sub>2</sub>Oサンタは、阪急・阪神百貨店をはじめとする、H<sub>2</sub>Oリテイリンググループの社会貢献団体で、「誰もが誰かのサンタになれる。」を合言葉に、さまざまな社会課題と、その解決に取り組む社会貢献団体を多くの方に紹介する活動をしています。

大阪の阪急うめだ本店に常設されている「チャリティーガイド」コーナーで、募金箱の設置と共に、パネルでダルニー奨学金を紹介していただき、2015年からメコン5カ国の子どもたちへのご支援をいただいております。



会場の様子

半期に一度、NPOフェスティバルが開催され、2023年2月20日から23日まで、民際センターも第16回NPOフェスティバルにブース出展し、参加させていただきました。

NPOフェスティバルは通常チャリティーガイドで紹介されている団体が一堂に集まってブースを出展し、ご来場者に身近にチャリティーを体験してもらうイベントで、阪急うめだ本店9階の祝祭広場で開催されます。ス

タンプラリー形式で各ブースを回ってクイズに答えると景品がもらえる参加型のイベントで、ブースに立ち寄ってくださった方々に各団体は活動の紹介をさせていただきます。また、扇状に階段席が広がる広場で行われるトークイベントにも参加させていただき、15分ほどインタビュー形式で、現場の声をご来場者にお届けする機会もあります。4日間、毎日トークイベントに立たせていただき、民際センターの活動を関西地区の皆様にも知っていただく良い機会になりました。特に、一月1,200円、一日にすると40円で一人の中学生が就学できる支援であることに驚かれる方が多かったのが印象的でした。関西在住の支援者様がブースに遊びに来てくださったり、他の社会貢献団体の方々とお話しする中で学びもあり、つながりもでき、素晴らしい時間をいただきました。さらに、広く民際センターの活動を全国に知ってもらう機会をどんどん増やしたいと強く思いました。



出展ブース

～パン屋さんで落語会～

## 商店街で広がる あたたかい支援の輪

北海道在住の” なっちゃん” こと山本夏江さん。ダルニー奨学金ドナー連絡会「ふらいさに～」の代表をされています。

高校生時代にタイにご縁があり、大人になったら何かお礼がしたいと思っておられたそうです。そして、たまたま目にした新聞記事でダルニー奨学金のことを知り、1993年から現在までタイをはじめラオスやミャンマーの子どもたちへ奨学金支援をしてくださっています。

バイタリティーと行動力にあふれるなっちゃん。奨学生に実際に会いに行かれることもしばしば。今では北海道のご近所の方々と募金活動や落語会を開催され、民際センターの活動を紹介してくださっています。一緒にタイに行かれた支援者の方々ともネットワークを持ちつつ、メコン5カ国の貧しい子どもたちのために楽しく色んなアイデアを出して活動してくださっています。今回はその活動を紹介させていただきます。



なっちゃんとタイの子どもたち

なっちゃんを中心となり、札幌市手稲区に店を構えるパン屋喫茶大和さん、落語家の桂

紋四郎さんにご協力いただき、2021年から落語会を開催され、そのチケットやオリジナル手ぬぐいの売り上げの一部をダルニー奨学金に寄付してくださっています。実際その活動で2022年度タイの中学1年生をご支援くださり、卒業まで3年間サポートしていただきます。



落語会の様子

パン屋喫茶大和さんは、普段から店頭でダルニー奨学金の募金箱を設置していただくとともに、落語会場としてスペースを提供してくださり、桂紋四郎さんは、なっちゃんとお会ったことで、落語を通して今では奨学金支援に賛同くださっています。さらにご近所の「さとう接骨院」さん、「塩ホルモン炭火のあんざい」さんも募金箱の設置でご協力いただき、その輪が地域で広がっています。

奨学生が住む貧しい村や自宅にも訪れ、実際の生活の様子を肌で感じ、まさに顔と顔を合わせて子どもたちと関わってこられたなっちゃんだからこそ、支援の必要性を深く感じ、活動を熱心にそして楽しく続けてくださっているのだと思います。さらにこのような輪が、全国各地で広がることを願っています。

\*ダルニー奨学金の募金箱の設置をご希望の方はこちら：  
<https://www.minsai.org/recycling-and-donation-boxes/>

# 犯罪に走る子どもを 減らすために

支援者 Oさん

仕事でタイに住み、イサーン地方（タイ東北部）にも馴染みがあるOさん（男性）。その地域に何か還元したいという思いで2012年からタイのダルニー奨学金支援を始められ、現在ではカンボジア女子寮建設プロジェクトなどにもご支援をいただいています。Oさんとやり取りする中で、今もタイに教育支援が必要だと痛感させられます。皆様にもぜひ、こんな思いで支援してくださっている方がいらっしゃるといことをご紹介しますと思います。

約10年前、タイのバンコクでホテルへ向かって歩いていた時、バイクに乗った男からバッグをひたたくられそうになりました。1回で奪えなかったため、バイクはUターンしてきました。と、同時に仲間のバイクも来て、彼ら3人が殴り掛かってきました。最初は素手でしたが彼らはナイフを持っていて、最終的に滅茶苦茶にされて倒れた私を3人で散々蹴りつけて逃げていきました。

幸いホテルまでは200メートルほどだったので歩いてたどり着き、スタッフに助けを求めて救急車で病院に運ばれました。不幸中の幸いだったのは、上半身に傷を負わせられたけれど下半身は無傷だった事です。足を負傷していたら失血死もあったかもしれません。

こういう経験があったので、女子が治安の悪い社会の中で遠距離の通学をすることは「止めさせなければならぬ」と感じました。私を襲った暴漢は、学校に

行っていなかったかもしれません。学校に行けなければ学歴は無く、いい会社に入る事が出来なくて給料も安い。あるいは安い給料の会社にさえも入れない。そのため、お金がないから手っ取り早くひたたくりなどの「犯罪」に走る。

彼らの様な犯罪者を生み出さないためにも教育は必要だと感じますし、犯罪者を少なくするためにも「ダルニー奨学金」は必要と思います。民際センターの行っている活動は大変意味のある事です。少なくとも私を襲った3人にもう少し学があれば刺したりしないで詐欺のような手段でお金を巻き上げただけだったと思います。そしてもっと言えば、そういう犯罪に使う知能があれば、それをまっとうな仕事や商売に使えば名誉もお金も手に入るという考えに行きついたかもしれないのです。タイという国、そしてその近隣諸国が教育を通してそういう考えであふれる国となって欲しいです。



## タイの方言と標準語



民際センターの設立者である理事長の秋尾晃正が、設立当初からの歴史を振り返って執筆する連載。今回は、タイでダルニー奨学金がスタートした時に起こった想定外の出来事の話です。

1988年、民際センターが創設されて2年目の出来事です。朝日新聞にダルニー奨学金が紹介され600余名の新規の中学1年生の奨学生が選考されました。その後、タイから奨学金証書が郵送され、支援者の手元に届きました。

ほとんどの人が次の年も継続して中学2年生の奨学金も提供してくれました。問題が起きたのは、奨学金証書が支援者に届いた頃で、多くの支援者から立て続けにクレームの電話を受けました。内容は、写真は自分が支援した生徒の顔で間違いないが、名前が違うというものでした。民際センターの奨学金は一人の生徒を卒業まで支援する制度だと思い支援を開始したものの、写真が同じで生徒名が違うといういい加減なものなので、これで支援を打ち切りますというような電話の数々でした。

既にタイに送金しており返金はできず、調査をするので両学年の奨学金証書を事務所に郵送してもらうようお願いし、結果を待っていただくことにしました。当時のタイ事業所はウドンタニ県にあり、やり取りは手紙と電話のみでした。電話代は非常に高かったため、今回の奨学生の名前の間違いに対する怒りの文章を添えて、コピーした証書を速達で送付しました。数日後、タイから電話があり、中学1年生のローマ字の名前を讀んでく

ださいと言われ読み上げました。続けて中学2年生のローマ字の名前も讀んでくださいと言われ読み上げました。スペルはまるっきり違いましたが「音」はほぼ同じだったのです。

初年度はタイ東北地方の先生が方言であるイサーン語の発音をローマ字にしたのですが、生徒にとって初めてアルファベット表記で自分の名前を受け取ることになるので、一生使える標準語にすべきとのことで、次年度は事業所で標準語の発音のローマ字に変更したという経緯が分かりました。



それが分かってからは、電話口で支援者の方に両方の名前を発声してもらい、同じ生徒だと伝え、初年度はイサーン方言表記で、次年度以降は標準語表記になりますと説明し納得してもらえました。3年目には6000名余りの奨学生の氏名をすべてチェックし、標準語で統一しました。これだけでも当時のタイ事業所の仕事は膨大なものでした。

## マイ・ページをご利用ください

マイ・ページは、支援者様と奨学生、そして民際センターとのコミュニケーションを劇的に向上させるためのツールです。ご利用いただくことで、今までメールやお電話にて都度ご依頼をいただいていた支援者様の住所、電話番号、領収書発行先などのご登録情報の変更が、ご自身で可能になります。

また、年に2回のEDF\*グループからの郵送物でしか確認することができなかった支援履歴、支援状況表、奨学生写真等を、PC又はスマートフォン、タブレットから確認することができます。未登録の方は是非とも、ご活用ください。

\*EDF：The Education for Development Foundation、  
民際センターを含む各国事業所の総称名

ご登録方法について [www.minsai.org/oshirase/mypage](http://www.minsai.org/oshirase/mypage)

## ボランティア募集中

民際センターの活動は、多くのボランティアに支えられています。募集内容は、書類封入、切手整理、データ入力、翻訳、広報資料作成等のボランティア活動があります。活動場所は、民際センター事務局やご自宅など、活動内容によって異なります。

現在、アドビ・イラストレーターを用いて広報資料（チラシやパンフレット）をデザインしていただく方や、動画編集ができる方が必要です。基本的に在宅での作業となります。ご興味のある方は、民際センターのホームページをご覧ください。

HP <https://www.minsai.org/volunteer>

## 「支援者の声」を募集しています

皆様の声を民際センターのホームページ「支援者の声（[www.minsai.org/activity/voice](http://www.minsai.org/activity/voice)）」やダルニー通信などでご紹介させていただきます。ご支援された経緯、奨学生とのエピソードなど、文章、動画、何でも結構です。事務局までお寄せください。

## 民際センターを紹介してください

皆様のブログ、SNS、ホームページなどで民際センターを紹介してください。ロゴや写真、記事の提供などは事務局へご依頼ください。

### 事務局 Q & A

- ❶ 忘れずに支援するためにはどのような方法がありますか？  
- クレジットカードによる寄付にて自動継続による引き落としをご選択ください。
- ❷ 友人が「ダルニー奨学金の寄付を始めてみたい」と言っています。詳しい説明を聞くことができますか？  
- お電話やメールでお問合せください。また、事前にご連絡いただけましたらオンライン会議システムなどにより職員が直接ご説明いたします。
- ❸ 終活を一緒に考えてくれますか？  
- 相続による寄付、遺言書の書き方などの遺贈について、ご支援者様のご要望をお聞きしながら、専門家を交え一緒に考えさせていただきます。遺贈寄付のお悩み、ご質問にワンストップでお手伝いします。是非ご相談ください。
- ❹ 支援している奨学生に会いに行くことはできますか？  
- 基本的に可能ですが、各国の状況によります。訪問される場合は、必ず事前に民際センターにご連絡ください。現地事務所から各国の政府機関に申請し、許可が必要な場合があります。
- ❺ 民際センターは、メコン5カ国を支援していますが、どこの国を支援して良いのかわかりません。どの国が一番支援を必要としていますか？  
- 民際センターが支援しているメコン5カ国の農村地域などはいずれも貧しく支援を必要としています。毎年の支援状況により国毎に不足の程度が変わりますので、その都度お問合せください。もしくは、ご支援の際に「一番支援が必要な国」とご明記ください。

### 編集後記

いよいよコロナ禍も明け、イベントや企業の報告会など、外に出て行って民際センターの活動についてお話する機会も増えてきました。どのように支援者様からのご寄付が役立っているのかを、奨学生の様子を伝えながら感じていただけることにとても喜びを感じます。初めてダルニー奨学金を知る方々からは、1か月1,200円、1日40円で一人の中学生が学校に1年間行けますという説明に驚かれ、思っていた以上に支援を始めやすい、それくらいなら節約してやってみようかなどのお声もいただきます。さらに、ご支援いただいている皆様の元に、そして新しい方々の元にも出て行ってお話する機会を増やしていければと思っています。(米)

### 表紙の写真

船に乗る少女  
(ベトナム)



### 活動をご覧ください

facebook.com/minsai.org  
twitter.com/minsaiorg  
instagram.com/edf\_japan

### 郵便振替でのご支援はこちらからお願いします

ゆうちょ銀行  
振替口座

00160-7-664928

▶「ダルニー」とは…民際センターが奨学金を募り1対1の教育支援を始めるきっかけとなったタイの女の子の名前。  
ダルニー通信92号 2023年6月1日発行 発行人：秋尾晃正 | このダルニー通信は2023年3月に編集されました。



公益財団法人

民際センター

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル7F

TEL：03-6457-5782 / FAX：03-6457-5783 / MAIL：info@minsai.org / HP：www.minsai.org